

令和6年8月 番組審議会議事録

株式会社び〜びる

2024年8月27日

作成：放送部 田中直也

令和6年8月番組審議会 議事録

○日 時 令和6年8月27日(火) 10:30~12:00

○会 場 株式会社ぴ〜ぷる 大会議室

○出席者 委員長 栗原 宣康 (唐津市 教育委員会 教育長)
委 員 木村 剛 (唐津青年会議所 監事
/ (株)渚館きむら 代表取締役)
〔新任〕西 亘 (玄海町みんなの地域商社 統括マネジャー
兼 EC・外販・地域ブランディングマネジャー)
〔新任〕松尾 由美 (国際ソロプチミスト唐津 会長)
森 千晶 (唐津市 政策部 広聴広報課 課長)
山口 ひろみ (唐津市子育て支援情報センター センター長)
ぴ〜ぷる 中村 隆 (代表取締役社長)
山下 善史郎 (取締役常務)
亀井 信一 (取締役放送部長)
松尾 卓 (放送部 副部長)
田中 直也 (放送部 担当課長)
〔欠席〕 松田 毅 (佐賀新聞 唐津支社長)
山下 正美 (唐津商工会議所 専務理事)

■. 株式会社ぴ〜ぷる社長 挨拶

番組審議委員ではいろんな角度から意見をいただきたい。

唐津は4万5000世帯ですが、人口減、世帯減が進み、次の世代は約半分になる。

半分になったときに、我々のコミュニティ放送はどういうやり方をしないといけないのか、今後、どういふうに形を作っていくのか、意見をいただき支援いただければと思っています。

■. 番組審議委員長 挨拶

今回は2人の委員さんが加わり喜んでいきます。

今回の主対象番組である七山の阿部先生の番組を拝見した。これは良いなと思った。

副対象番組含め、委員それぞれの感想をきかせていただければと思います。

■. 委嘱状授与

西 亘 (玄海町みんなの地域商社
統括マネジャー 兼 EC・外販・地域ブランディングマネジャー)
松尾 由美 (国際ソロプチミスト唐津 会長)

番組審議委員 新任挨拶

松尾：普段はテレビを見ない家族、ぴ〜ぷる放送もほとんど視聴していなかった。

委員になっていいのかなと思ったが、これが一つのきっかけになって

視聴しない側からの意見が参考になるかなと思い、委員を引き受けさせていただいた。

西：僕は玄海町みんなの地域商社に所属し、地域振興、玄海町のふるさと納税の事務を受けたり、それに係る商品の新たな販路を作っている。

今週末を予定してる花火大会と観光業などの商品などに磨き上げるような仕事をメインでしている。前職はケーブルテレビで約20年ほど働いた。

どういったことが自分の中で言えるのか、当時のことと今地域に携わっているからこそ言えることがあるかなと思うので、いろいろ活発な意見を出したい。

■. 番組審議

審議主対象番組①

『故郷ともに生き 故郷と共に逝く 孤軍奮闘する若き医師の挑戦』(53分)

【初回放送】2024年4月6日 【制作】田中直也

過疎化が進む七山地区唯一の診療所「七山診療所」の院長を務める阿部智介さんの、地域医療に奮闘する姿を追いました。

阿部さんは外来診療や在宅診療を行うほか、医療インフラの集約や在宅医療・介護の体制構築に尽力しています。こうした活動が評価され、昨年、阿部さんは佐賀県で初となる「やぶ医者大賞」を受賞。

番組では、過疎地医療の実情や社会の課題、過疎化が進む中山間地域で孤軍奮闘しながら患者に寄り添う阿部さんの姿、医師のあり方を教えてくれた亡き父への思い、働く原動力となる家族への思いを織り交ぜながら、住民の命を守る阿部さんの覚悟や思いを描いています。

故郷を守るため、全力で地域と向き合う阿部さんの姿を市民に伝えたいと思い番組を制作しました。

●意見（要約）

木村：今回この番組をさせていただき感動した。

過疎地域で何が問題になっているのか（医療の側面で）問題提起されていた。

特に印象深かったのが、亡くなられた方を撮影した場面があり私は衝撃を受けた。

逆にそういった場면을放送したとき視聴者から意見があったのか？

田中：亡くなった親族の方からも賛否両論あった。ただ、亡くなるシーンは番組のテーマである自分らしく最後まで生きるという要素を表現したかったので、取り上げた。

先生からも撮影してみてもと打診があり。亡くなる前日と当時に撮影。最後まで自分らしく生ききった姿が写しだされたと思う。このシーンがないと番組が成立しなかったかもしれない。亡くなった方の息子さんは喜んでおり、親族から賛否両論あったが最後は理解していただいた。

木村：過疎地医療に取り組む医師を取り上げた番組を何度か見たことがあったが、直接死に直面した場面を映像で流すシーン（現実には死後数時間）は見たことがなかった。番組は深みがあり、生と死について考えさせられた。

素晴らしい構成と番組だった。阿部先生 1 人しかいない、医師不足という問題提起を表現した番組だった。

↓

田中：これから超高齢化社会になり在宅医療のニーズが増える。現状は外来診療をメインに診療する個人病院が多い。七山で孤軍奮闘する阿部先生の活動を通して、今後の医療の課題を考えてくれるきっかけになればと思う。番組を見た視聴者から在宅医療の必要性を感じていただき、それが外来診療している医師に伝わればと思う。

松尾：感動いたしました。亡くなられたシーンを孫と一緒に見てた。

穏やかに家族に見守らながら亡くなった姿を映したことは番組にとって大事な部分だった。阿部先生のような医師がいれば良いと思う、私の家族も在宅医療を望んでいますので、そういうお医者さんがひとりでも増えられたらと思います。

インタビューで阿部先生は（過疎地医療は大変だということで）子供には引き継いでほしくないといった。そういう本音で語るなど何ひとつ飾らない自然な生の声を表現していたのが良かった。

山口：阿部先生のことは知っていた。番組を通してさらに一つ一つのシーン、阿部先生の生き方や信念が伝わった。阿部先生が一番伝えたかったのは「看取る」ということ。先生にとって患者がふるさとで家族に看取られることを理想としている。これから老いていく中で自分の生き方はどうなんだろうと番組を通して感じた。ぜひ小中学生の子どもたちに見せてほしい。阿部先生のような医者が唐津で出てきてほしい。唐津で地域医療に携わりたいと思う子どもたちがひとりでも多くなってもらえたらなと思った。

森： やぶ医者大賞をきっかけに取材された。丁寧に取材していた。

阿部先生が父の姿を見て、地域医療されている姿をみて、番組を見た子供たちは唐津で地域医療という生き方があるんだと知るきっかけになったと思う。

やぶ医者大賞のあとに新人医師が「地域医療についてイメージがなかったが、阿部先生の言葉を聞いて現実味が増した」とコメントしていた。

あと先生が地域医療の医者は決してヒーローなっではないとコメントしていたのが印象的だった。過疎地医療を一人で担うことはすごいと紹介されがちだが、地域医療の本当の現実やひとりで医療の担うことへの負担や苦労面も取り上げていた。この番組を通して自分の知らないいろんなことがたくさんあるんだなと感じた。

七山の過疎地医療を取り上げていた番組だったが、肥前の納所も取り上げていたのが疑問だった。

↓

田中：阿部先生は七山のほかに唐津市全体の在宅医療のサポートもしている。

納所地区は無医村で在宅医療をする医師がいないので阿部先生が多くの仕事を抱え

なければならぬ現状を表現するために取り上げた。

西： 亡くなられてる様子を放送することはすごいなと思う。ぴ〜ぷる放送が50年以上地域に根付いた形で放送しているって地域の方の関係性が出来ているからこういうところまでできてると感じた。

この番組の中でいろんなキーワード（巡回寺子屋、人生会議など）があった。

ただ、番組を見る機会がなかった、教えてもらわない限りは実際見れなかった。

直感したのが割と長尺だなと思った。本腰を入れて見ないといけない。

いろんな世代に見てもらえるために、要点をピックアップしたダイジェストを「からとぴ」などのレギュラー番組、またはSNSなどで紹介すれば、より広く番組を知ってもらえるようならなと思った。

栗原：地域にこれほど思いを持っていただいている方をクローズアップして紹介していただき、素晴らしいなと思った。子供たちにこれはぜひ見せたいな思う。

阿部先生を紹介する中で、七山の過疎化、巡回寺小屋や生き方ノートだったり、先生が地域医療を進めるためにその背景となることも含めて、全てを見ていこうとしている様子をたくさん拾ってあった。

最後にやぶ医者大賞のシーンで阿部先生の講演を聞いた若手の医師2人が「改めて考えさせられた」というコメントを聞いて、ちょっと嬉しい気持ちになった。エンディングでは阿部先生の原動力は「地域医療を守ること」と「家族」と言っていたことが印象的だった。番組としてまとまって、とても素晴らしいなと思った。

審議副対象番組 ①②

●副対象①『からとぴ KARATSU' n NEWS & TOPICS』（15分）

【初回放送】2024年7月23日 【制作】富永ほか

地域の話や出来事をデイリーでお伝えしている『からとぴ』。この日は「七山小中学校 絵本『いのひのよる』贈呈式」、「子どものつどい」の2本と、コーナー ぴぷるんの再発見を放送。例年7月は県内のケーブルテレビ局共同制作で高校野球中継を行っており、ぴ〜ぷる放送からも7人が交代で制作に参加。今回のぴぷるんのコーナーでは特別版として、翌日開催の決勝戦の告知も兼ねて、高校野球中継の制作の裏側を紹介しました。

▶意見（要約）

松尾：「いのひのよる」のニュースを見て興味がありました。これがニュースで詳しく本人の話しとか、贈呈を受けた子どもたちの反応をみてとても良かった。

「からとぴ」は地域のいろんなことを取り上げている。奥深く取材している。地域性があってとてもおもしろい。

西： 高校野球中継の裏側について、ぴぷるんを使って面白おかしく、かつスピーディーに伝えていて、番組のアクセントにもなった。富永さんのナレーションが普段テレビで見るイメージ違って、何かかわいいなと感じた。

山口：「いのひのよる」について、富永さんに情報を提供したらすぐに「いのひのよる」の読み聞かせを取り上げてくれた。ちゃんと情報を伝えたらキャッチしてくれて、すぐに行動に移し映像として残してくれるのでありがたい。

「からとぴ」もすごく見られていて、ぴぷるんが子どもたちに大人気。「ぴぷるん再発見」でもいろんなところを紹介してくれる。ぴぷるんを通していろんな事を知ることができる。映像だけではなくぴぷるんが出ているので子どもたちも見えてくれる。

木村：番組の構成として、子どもたちや地域に根付いた番組のほか、高校野球中継の舞台裏を取り上げた「ぴぷるん再発見」の構成が興味を引く内容だった。高校野球中継の裏側をご紹介することで見方も変わってくると思った。全体的に内容が詰まった15分間だった。

森： 「いのひのよる」について七山で生まれ育った先輩が、次の子供たちに語りかけ、子どもたちが自分の今後を考えるきっかけになったのでは。先輩の話聞くのはすごくいい機会だなと思い、作家さんの声を聞きながら伝えられたところがすごく良かった。ぴぷるんの再発見は知らないことを知るきっかけになった。今回の高校野球中継の裏側のように知らないことを伝えてほしい。

栗原： 高校野球の決勝戦の前日に、「ぴぷるん再発見」でみどりの森球場の紹介があって、タイムリーに紹介してくれた。みどりの森球場の中継カメラや放送席からのアングルなど僕たちは知らない裏側がみれた。

提案として、みどりの森球場の場所を紹介してもよかったのではないかと思った。知らないで前を通ってる人がたくさんいるので・・・

●副対象②『守る米づくり 2024 田起こし・荒代掻き篇』（22分）

【初回放送】2024年5月3日 【制作】中西・吉原彩花

玄海町浜野浦の棚田では今年も「守る米づくり 2024」が始まりました。この「守る米づくり」は「棚田の景色を守るため一緒にお米作りをしませんか」をキャッチフレーズに、毎日食べるお米を絶景の中で作ってみたいと趣旨に賛同した「守りびと」が1年を通じてお米作りをするものです。

チャンネル玄海では、お米作りのスタートである田起こしから収穫までを密着していきます。

▶意見（要約）

亀井：番組について補足。審議対象の番組は年間で追っかけてるうちの一つ。完結ではなくプロセスを紹介している。

松尾：田植えをこんなふうに行っているんだっていうのを一から知ることができてすごく興味を持った。リポーターの2人もそれぞれ個性があって地方色豊かだった。

棚田を保存するために皆さんが真摯に関わっていることを見させていただいた。県外からの参加者もいることに驚きだった。続編が楽しみ。

山口：唐津市や市外の方々が見ていただくよう SNS などで紹介してくれたらありがたい。20分の中で田起こし部分だけだったので、田植えまで入れたら一連の流れがわかって変化があって面白い。そこから田植えした後、稲の成長、収穫という形にしたら見やすい。田起こしのシーンが長かったので、少しコンパクトにしてほしい。

木村：浜野浦の棚田は観光名所の一つ。人の手で作り上げたものを皆さん見学にきているきれいな棚田にするまでが、こういった苦労や気持ちがあるのか伝わった。米をつくる裏側というのを多くの方に見ていただきたいと思った。

森：番組の中で地域おこし協力隊が出ていて、ひとりでするよりみんなでするほうが元気が出ると言っていた。田起こしから荒代掻きを通して玄海町で頑張ってる方を知ることができた。田植え体験は子どもたちもよくやっていてイメージできるが、普段知ることのない田起こしや荒代掻きは見えて面白かった。映像を通して知ることができ、視聴者としてはすごくありがたい。

栗原：地域の方とリポーターのやりとりが思しく描かれていた。田植えについて詳しいことが知れてよかった。収穫の大変さを知ることができたり、リポーターも上手でした。

西： 年間通して追いかけていただき、とても光栄です。浜野浦の棚田を舞台に「守る米作り」というテーマで工作体験をしてもらい。リポーターが体験している様子をしっかりと伝えていた。リポーターと自分を投影して自分事化していた。
玄海町だけではなく YouTube や SNS など外に向けて発信してほしい。
浜野浦の棚田の景観を守るためにこの取り組みをしている、番組がその一助になれるようにうまく花開いてほしい。

社長： この番組はエッセンスが足りないと思っている、日本全国、浜野浦の棚田と同じような取り組みをしているところが結構たくさんある。そのために何か一つ加えたことをしないといけない。地元の少子高齢化に伴いこの米をどうやって守っていくのか疑問を投げかけたり、何か必要だと思う。

■別番組、レギュラー番組について

新番組「釣ってくう」→県内4局持ち回りで紹介、次回は唐津編

「からとび」新コーナー すくりポ 市内の学校紹介、校歌など

「週刊キャッチぴ〜ぷる」グランブー唐津の海中世界 唐津の海の魅力や環境問題をシリーズで紹介

■次回番組審議会について

次回番組審議会の開催日については12月を予定。

■閉会